



ながの さくら  
【愛の友協会後援会長賞】 永野 桜

私の大切な夢へ

貴方との出会いは、私がまだ幼稚園に通っていた頃だったね。

毎日、先生にお姫様と王子様が出てくる絵本を読んでもらって、

「わたしもすてきなおはなしをつくりたい!」と思ったのが始まりだった。

初めて書いた物語は、主人公のお姫様は自分の名前で、セリフばかりのなんのひねりもない話だったけど、とっても楽しかった。

私の目の前には、確かに自分の作った物語の世界が広がっていたんだ。

小学生になって、私が掲げた将来の夢は小説家。

私の通っていた中学校には文学部というものがなかったけど、小説を書くことはやめなかった。

いつも自信が持てずにおどおどしていた私だったけど、将来の夢を聞かれた時だけは、迷うことなく堂々と胸を張って答えることができたんだ。

高校に入学し、憧れだった文学部と演劇部に入部した。そこで小説のほかに、脚本を書く楽しさを初めて知った。「小説家」の道ともう一つ、「脚本家」という道を見つけたの。

どんなに辛い時も、苦しい時も、物語を書いている間は、それら全ての苦痛から解放されることができた。

「私もこの主人公のように頑張ろう。」

そう思っていくつもの壁を乗り越えて、今、私はここにいる。

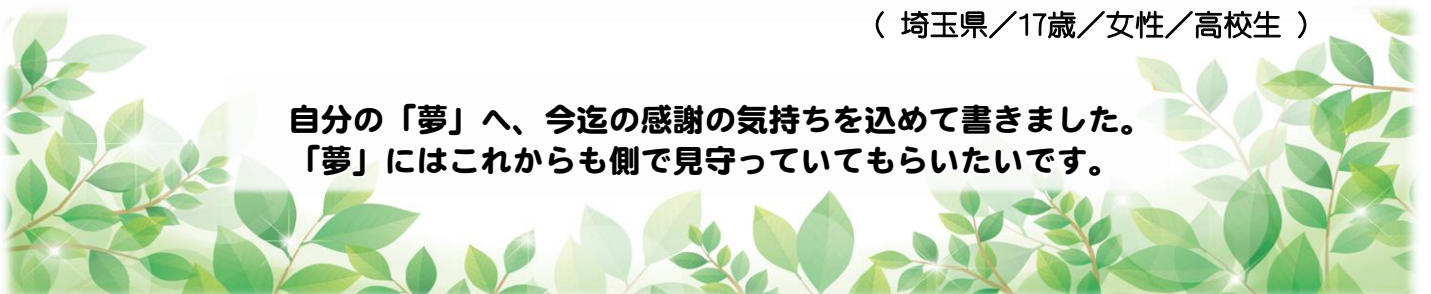
貴方は私の目標で、取り柄で、道標で、大切な宝物。

ありがとうだけじゃ、貴方への感謝は伝えきれないけど。

ここまで私を支えてくれて、導いてくれて、本当にありがとう。

いつも必ず追いついてみせるから、これからもそこで待っていてね。

( 埼玉県 / 17歳 / 女性 / 高校生 )



自分の「夢」へ、今迄の感謝の気持ちを込めて書きました。  
「夢」にはこれからも側で見守っていただきたいです。